

●04「認知天文学」/天空(天景天象)認知プロセス考察用仮分類テーブル (190627/190709/190905/190929/200215 高田)

●01表 対象物(環境/景観/前景・後景・背景) ■認知客体

		昼	夕方	夜	朝方	
天体	銀河系	(輝星)	恒星	恒星・天の川銀河・星雲星団	恒星	
	太陽系	太陽・(輝惑星)	夕日・惑星・彗星など	惑星・彗星など	朝日・惑星・彗星など	※日食/(夕朝)黄道光・対日照
	地球-月系	月(位相・満ち欠けあり)				※月食
大気中	地球大気系(含飛翔生物等)	青空・雲・虹など・鳥など	薄暮空・雲(有彩色)・鳥など	流星・雲(夜間は暗景)など	薄明空・雲(有彩色)・鳥など	※隕石/(高緯度)オーロラ
地上	地上景観系	山・丘/植物・木・森/人工物(夜間は暗景)				(※隕石)

※大気飛翔系:(生物系)鳥/昆虫/植物(のタネ):(気象系)雲・霧/雨/雹/(→水系)/(虹・光系)/雲間から光柱/雷光(雷鳴)/幻日系現象:(天体系)→隕石落下:(鉱物系)→火山噴出物(噴火・火炎/噴煙/噴火雷/噴塵(の降下物))→隕石と火山噴火噴煙は「天と地」を結ぶ特別な現象として注目・要検討

●02表 認知者(外的属性/担い手) ■認知主体

(主たる)生活地	(主たる)生活スタイル	(主たる)生業	認知時特性・環境など
(極域)	海洋民	支配層※01	性別
高緯度	遊牧民	宗教家	年齢
中緯度(回帰線)	狩猟民	学芸術	単独者か複数者か
低緯度(赤道)	農耕民	商工業	...
(南北半球)	漁労民	農林漁労	

(基盤Aキックオフ・メモ)

- (社会形態) ・文献史学の史料集成の必要性
- 統治機構の強権性 ・支配層(※01)が史料の作成主体であるバイアスの考慮
- 経済的豊かさ ・数値シミュレーションと文献解釈の補正(手法論)
- ? ・斉藤国治さんの仕事の評価
- ・天は硬い(岩盤性/すきま・穴=つつ=星→外は明るい・白い世界/たとえばニライカナイ)
→たとえば渾天説・蓋天説・宣夜説

●04表 着眼点・論点 ■「日本人が見てきた星空」項目タイトルとポイント

- ①神様の星空と生活の星空(信仰と実用・外来と在来・伝播と定着選択)
- ②秋の星空は春の星空(反季節・生活時間)
- ③遠くの星空と近くの星空(天の思想・思想縛り)
- ④感じる星空と物語る星空(美意識・物語縛り)
- ⑤残る星空と残す星空(伝承条件)
- ⑥繋がる星空と離れた星空(文化伝播・アフォーダンス)
- ⑦a 大きな星空と小さな星空(実用適性)
- (⑦b 写実性と抽象化/分割条件など)

●03表 伝承形態 ■メディア ※伝わりやすさ・残りやすさの条件(時間変化解析の要あり)

(命名)	「生活のことば」と「テクニカルターム」
ことば(※言霊)	
うた(語り)	※建築物
図像	
文字	
(擬人化?)物語	
(神話・コスモロジー)	

※名づける行為→実用性の要請から→好奇心(遊び)からもあるのか?

○(和星本の対談まとめ・高田括り): 極端なことをいうと、単に星は暗い空にばらばらとランダムに光っているだけで、情報としては非常に簡単でさっぱりしたものなので、見る側に、それらを何か意味づける認識の枠組みのようなものがないと関心を持ったり感情移入したりしにくい対象だと思うのです。その枠組みが、たとえば、実用や信仰、あるいは芸術や科学といった形をとって、その時代時代のさまざまな階層や職種の担い手たちによって、ここまで多彩に編みこまれてきたのかなと...